

大谷巖一の物流不動産Biz

A B C



大谷巖一（おおたにいわかず）イーソーコドットコム取締役会長・日本物流施設取締役。昭和56年東京運輸倉庫入社、平成14年東運開発取締役（現職）、同15年東京倉庫運輸を退職しイーソーコ総合研究所取締役副社長（現職）、同18年トーウン取締役（現職）。日本物流学会等で講演多数。著書に「これからは倉庫で儲ける！！物流不動産ビジネスのすすめ」など。昭和35年生まれ、高千穂商科大卒。趣味はビジネス・読書・歴史探訪。

新連載

オフィス業界 万5000坪以上の超
で倉庫をオフィ
スやスタジオに
改装する「倉庫
リノベーション

ション」に注目が集まっているのをご存知だろうか。倉庫をリノベーションしたオフィスには、広い空間で自由に内装を作

空室対策に物流不動産Bizの視点を 倉庫リノベーションという秘策

第1回

があり、話題性、宣伝効果も高い。イーソーコグループは、倉庫物件の仲介とマスターリース事業を収益基盤としてきた。そんな中、近年では、倉庫をオフィスに使用したいという要望が目立つようになった。倉庫の仲介に関しても、環境の状では難しい。その打開策として考えたのが、倉庫を物流用途以外に利用する「倉庫リノベーション」だ。物流業界では、ファブが、倉庫を物流用途以外に利用する「倉庫リノベーション」による延床面積1外に利用する「倉庫リ

「玉突き現象」により、顧客を奪われた中小規模の倉庫には大量に空きが発生するというしわ寄せが起こっている。当社グループには、そうした中小規模の倉庫オーナーから、なんとかテナントを誘致できないかという問い合わせが急増している。従来、物流用途でのテナントを紹介してきた。しかし、物流用途としての空き倉庫にお客を提案するのは、現状では、物流不動産Bizの経営者に好評で、実際に作ったスペース用途として全ての複数の申込みが入ったこともある。連載では、物流不動産Bizの経営者に好評で、実際に作ったスペース用途として全ての複数の申込みが入ったこともある。連載では、物流不動産Bizの経営者に好評で、実際に作ったスペース用途として全ての複数の申込みが入ったこともある。